経営	粗収入	4,940万円	1,900万円	8,040万円	41,930万円	7,350万円	9,460万円	19,560万円	2,950万円
	経営費 （うち雇用労賃）	4,170万円 (310万円)	1,560万円 (400万円)	6,770万円 (60万円)	36,260万円 (2,060万円)	5,980万円 (300万円)	8,120万円 (300万円)	17,680万円 (940万円)	2,560万円 (350万円)
	農業所得	770万円	340万円	1,270万円	5,670万円	1,360万円	1,350万円	1,880万円	390万円
	主たる従事者１人当たり所得	770万円	340万円	630万円	710万円	680万円	670万円	630万円	390万円
生産性	経産牛１頭当たり飼養労働時間 （現状平均規模との比較）	64時間 (76%)		46時間 (54%)	56時間 (66%)	72時間 (64%)	54時間 (48%)	60時間 (54%)	
	生乳１kg当たり費用合計 （現状平均規模との比較）	69円 (88%)		75円 (94%)	71円 (90%)	86円 (86%)	90円 (92%)	92円 (94%)	

注：主たる従事者１人当たり所得は、法人等における内部留保等を計算上見込まず、農業所得を主たる従事者数で割って試算。
　　生産性の各平均値は、「畜産物生産費」等を使用して試算。
（参考）【牛】に関する現状値
　　北海道：経産牛１頭当たり乳量：8,000kg、更新産次：3.6産
　　都府県：経産牛１頭当たり乳量：8,200kg、更新産次：3.3産

２．肉用牛（繁殖）経営指標

	1	2	3
【経営類型の特徴】	荒廃農地や水田等での放牧により省力化を図りつつ、適切な規模での効率的な飼養管理を図る家族経営	荒廃農地等での放牧やキャトル・ブリーディング・ステーションの活用を通じ、省力化と牛舎の有効利用により規模拡大を図る家族経営	分娩監視装置や哺乳ロボットの導入、コントラクターの活用等により、分娩間隔の短縮や省力化等を図る大規模法人経営
【立地条件】	全国		
【土地条件】	畑又は水田	畑又は水田	畑又は水田
【経営形態】	家族・複合	家族・専業（１戸１法人も含む）	法人
【飼養形態】	繁殖雌牛（肉専用種） 30頭	繁殖雌牛（肉専用種） 80頭	繁殖雌牛（肉専用種） 200頭
飼養方式	牛房群飼 連動スタンチョン	牛房群飼 連動スタンチョン 早期離乳	牛房群飼 連動スタンチョン、哺乳ロボット 発情発見装置、分娩監視装置 早期離乳
外部化		キャトル・ブリーディング・ステーション	
給与方式	分離給与	分離給与	分離給与
放牧利用（放牧地面積）	放牧（９ha）	放牧（25ha）	—
【牛】			
分娩間隔	12.5ヵ月	12ヵ月	12ヵ月
初産月齢	23.5ヵ月齢	23.5ヵ月齢	23.5ヵ月齢
出荷月齢	８ヵ月齢	８ヵ月齢	８ヵ月齢
出荷時体重	270kg	270kg	270kg